入 札 公 告

次のとおり一般競争入札に付します。

令和7年3月13日

国 立 研 究 開 発 法 人 水 産 研 究 · 教 育 機 構 水 産 資 源 研 究 所 管 理 部 門 長 木 白 俊 哉

1 . 調 達 内 容

(1) 調達件名及び数量 (単価契約) 茨城県~三重県のノルパックネットサンプル分析業務 一式

(2)調達 仕様 入札説明書による。

(3)履行期限 令和8年3月16日

(4)履行場所入札説明書による。

(5)入 札 方 法 入札金額は、単価に予定数量を乗じた合計額を記載するこ

2. 競争参加資格

- (1) 国立研究開発法人水産研究・教育機構契約事務取扱規程(平成13年4月1日付け13水研第65号)第12条第1項及び第13条の規定に該当しない者であること。
- (2) 令和7・8・9年度国立研究開発法人水産研究・教育機構競争参加資格又は全省庁統一資格の「役務の提供等契約」の業種「調査・研究」で「A」、「B」、「C」又は「D」いずれかの等級に格付けされている者であること。
- (3) 国立研究開発法人水産研究・教育機構理事長から物品の製造契約、物品の販売契約及び役務等契約指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。
 ただし、全省庁統一資格に格付けされている者である場合は、国の機関の同様の指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第32条第1項各号に掲げる者でないこと。
- (5) 本業務を履行しうる知識・技術を有することを証明した者であること。
- (6)仕様書を踏まえた実施体制を整備するとともに、第三者に委託することなく業務責任者(査定結果の最終判定を行える者)を有することを証明した者であること。
- 3 . 入札説明書等の交付方法

競争参加希望者は、以下により入札説明書等(入札説明、入札心得書、契約書案、入札書様式、委任状様式等)

)直接交付 神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所 管理部門管理課 電 話 045-788-7084

- FAX
 0 4 5 7 8 8 5 0 0 1

 ② 宅配便着払いによる交付任意書式に「(単価契約)茨城県~三重県のノルパッ

記 ①

X 送

4 . 入札説明会の日時及び場所等

仕様書等に関し質疑がある場合には、 ・ ののでは、 日 当日までの質 記 疑 う 会に代える。 当該日以降に質疑が発生した場合も随時受け付け、 な お る。
疑内容に個人に関する情報 に 対 応 す た 質 であって特定の個 し をす 識別し得る記述がある場合及び法人等の財産権るおそれのある記述がある場合には、当該箇所 識別し得 を侵 害 を伏せ 又は当該質疑を公表せず、質疑者のみに回答する る。

5 . 証明に関する事項

 (1)
 証
 明
 書
 等

 (2)
 提
 出
 場
 所

競争参加者は、上記2. (5)及び(6)を証明する証明書等を提出しなければならない。 入札説明書による。 3. ①に同じ。 (3)提 期 限 令和7年4月3日 17時00分 出

- 6. 入札の日時及び場所等
 - (1)入札の日時及び場所 和 7 年 4 月 1 7 目 1 4 時 3 0 分 奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4 立研究開発法人水産研究 玉 教育機構 •

浜 庁 舎

- (2) 郵便による入札書の 令和7年4月17日 1 2 時 0 0 分 受 領 期 限 及 び 提 出 場 所 3. ①に同じ。
- 7 . そ \mathcal{O} 他
 - (1) 契約手続きにおいて 使用する言語及び通貨 日本語及び日本国通貨。
 - 除。 (2)入札保証金及び契約保証金 免
 - (3)入札の 1111. 本公告に示した競争参加資格のない者の提出した入札書 及び入札に関する条件に違反した入札書は無効とす

ビデ

オライブ

ラ IJ

- 要。 (4) 契約書作成の要否
- (5) 落札者の決定方法

予定価格の制限の範囲内で最低価格をもって有効な入札行った入札者を落札者とする。 とべ た者 ٢ 者の 落 札 なる 入札価格に より した履の 行 そるて があ 契 を 締 結 す \mathcal{O} 者 とと と が کے なるお れがあっ きは 格の制 予 内で入れした他で入れませる の者 のうち最低の価 限 0 内の価 範囲 もっ

- (6) 競争参加者は、入札の際に国立研究開発法人水産研究・教 写し又は全省庁統一資格の資格審査結果通知書写しを提出す ・ 教 育 機 構 の 資 格 審 査 結 果 通 知 書 る
- (7) 詳細は入札説明書による。
- 8.契約に係る情報の公表
 - 公表の対象となる契約先 次の①及び②いずれにも該当する契約先 ① 当機構において役員を経験した者(役員経験者)が再就職していること又は課長相当職以上の職を経験した者(課長相当職以上経験者)が役員、顧問等※注1 として (1)
 - 当機構との間の取引高が、総売上高又は事業収入の3分の1以上を占めていること

ン タ ー 及 び 国 立 研 究 開 発 含 み ま す 。 改称前の独立行政法人水産総 合 研 セ 産大学をの 統合前の独立行政法人水産 その他いかな 役員、顧問のほか、や業務運営について 顧問等 ※ 注 員、顧るかを には る 名 称を 助言する と等 問わず 営 よ り 影 響 経 を 認められる者

- を含む。収入の額は 上高又は事業額によること 入の額は、当該契約の締結日における直近の財務諸表に掲げし、取引高は当該財務諸表の対象事業年度における取引の実 当該契約の締結日における直近の財務 ※ 注 2 られた額 績による
- (2)公 表 する情報 上 記 (1)に該当 する契約先について 契 約 物 役務等の名称及び数量、契約 要約金額等と併せ 、る 契約先の 名 称 結 日 情 報 を公表する 構の役員 経験者及び課長相当職以上経験者 (当機構OB)の人数、職名及び当 構 おける最終職名
 - 当 との間の取引 上高 又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合が、次の区分のいずれ かに 該 当す 旨
 - 3 分の1以上2分の1未満、2分の1以上3分の2未満又は3分の2以上一者応札又は一者応募である場合はその旨
- だく情報 当機構に提供し ていた (3)点で 契約締結日時 在職している当機構OBに係る情報 (人数、現在の職名及び当機 1 おける最終職名等 直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び当機構との間の取引高
- 約締結日の翌日から起算し て原則とし 原則として93日以内)
- (5) その他 当機構ホームページ(契約に関する情報)に「国立研究開発法人水産研究・教育機構がう契約に係る情報の公表について」が掲載されているのでご確認いただくとともに、所の情報の当機構への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締を行っていただくよう世界解とご協ななれた。 要の情報の当機構への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締結を行っていただくようご理解とご協力をお願いいたします。 なお、応札若しくは応募又は契約の締結をもって同意されたものとみなさせていただきますので、ご了知願います。
- 9. 公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について

当機構では、国より示された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン (実施基準)」(平成19年2月15日文部科学大臣決定)に沿って、公的研究費の契約等における不正防止の取り組みを行っており、取り組みのひとつとして、取引先の皆様に「国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたっての注意事項」(URL: https://www.fra.go.jp/home/keiyaku/files/pledge_requestnote_contract2.pdf)をご理解いただき、一定を 額以上の契約に際して、当該注意事項を遵守する旨の「誓約書」の提出をお願いしています。公的研究費の不正防止関係書類(①公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出につい て、②国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたっての注意事項、③誓約書)は、 入札説明書に添付しますので、契約相手方となった場合は、誓約書の提出をお願いします。なお、当機構の本部、研究所、開発調査センター、水産大学校いずれか1箇所に1回提出していただければ、当機構内の次回以降の契約では再提出する必要はありません。

業務仕様書

1. 件 名 (単価契約) 茨城県~三重県のノルパックネットサンプル分析業務 (茨城、千葉、東京、神奈川、静岡、愛知、三重)

2. 業務目的 本業務は、我が国周辺海域における資源評価調査の一環として、 黒潮蛇行海域における魚類等の卵稚仔の種組成および発達段階組成 を明らかにし、産卵量・卵稚仔分布量を推定することを目的とする。

3. 業務場所 契約締結業者指定場所

4. 予定数量

1) ノルパックネットサンフ	プル分析 (茨城県)	145 検体
2) ノルパックネットサンフ	プル分析 (千葉県)	197 検体
3) ノルパックネットサンフ	プル分析 (東京都)	94 検体
4) ノルパックネットサンフ	プル分析 (神奈川県)	154 検体
5) ノルパックネットサンフ	プル分析 (静岡県)	275 検体
6) ノルパックネットサンフ	プル分析 (愛知県)	288 検体

(口径 45 cm、目合 0.335 mm のネットによる水深 150 m から海面までの鉛直曳き標本)

298 検体

- 5. 業務内容
- 1) ノルパックネットサンプル分析 (茨城県) 標本採集実施機関:茨城県水産試験場

7) ノルパックネットサンプル分析 (三重県)

- (1) 標本の送付:当所の依頼により標本を採集した標本採集実施機関が請負者に採集標本および標本一覧表を送付する。また、当所作成のエクセル等、表計算ソフトのワークシートを送付する。なお、送付にかかる運送費は請負者が負担する。
- (2) 標本の確認:請負者は標本を受け取ってから速やかに標本と標本一覧表を照合し、標本瓶の破損、標本の固定状態等について確認する。標本と標本一覧表の不一致や輸送中の事故があった場合は、速やかに標本採集実施機関と取扱について協議する。
- (3) 卵・仔稚魚の選別・計測: 卵・仔稚魚の選別前に沈殿量を測定する。 標本から約 10 mm 以上のゼラチン質生物 (サルパ・ウミタル・クラゲ等、但しゾウクラゲは含めない)、 長さ約 20 mm 以上の大型生物 (オキアミ類、ヤムシ類、魚類を除く) を別扱いとして分別した後、ゴミ等を取り除く (分別した生物は、後に選別する魚卵・仔稚等と

一緒にすることなく別瓶に保存し、湿重量測定作業終了後の選別済みプランクトン標本とともに委託者に返送する)。次に、試験管等の別容器に移し、一晩以上置いて採集物を完全に沈殿させ、沈殿量 (ml、小数点 1 桁)を計測する。その後、標本から魚類の卵・仔稚魚及び頭足類幼体をすべて選別する。選別に当たってはスポイドまたは先端の柔らかいステンレス製または竹製のピンセットを用いるなど、卵・仔稚魚を損なうことのないよう注意する。また、破損した卵・仔稚魚、特に前期仔魚の取り残しに注意する。卵・仔稚魚・幼生について、別添「太平洋ブロック共通フォーム」に記載した魚種・発育段階ごとに計数する。卵は発達段階 A (受精後原口閉鎖まで、ただしカタクチイワシでは胚膜が 1/2 に達するまで)、 B (尾芽が卵黄から分離するまで)、 C (孵化まで)の3段階および不明ごとに、仔稚魚は前期仔魚と後期仔魚以降の個体数を、スルメイカは総個体数を数える。サバ属卵は接眼ミクロメータを用いて0.025 mm 以上の精度で直径を計測し、1.1 mm 以下をマサバ、1.1 mm 超をゴマサバとして集計すること。魚類・頭足類以外の標本の湿重量 (g、小数点 2 桁)を計測する。

- (4) 標本の保存:選別した魚類の卵・仔稚魚は採集点ごとに、スルメイカを含む指定魚種、その他の魚類・頭足類ごとの2つに分け、10 ml 程度の中蓋付き標本瓶に5%中性ホルマリン溶液で固定する。基本的に標本は5%中性ホルマリン溶液での固定とするが、「その他魚類卵」および各「類似魚種卵」等について、担当者から指示があった場合は99%エタノールで保存する。その際、容器蓋に99%エタノールと分かるように記載すること。標本が大きい場合は適宜大きいサイズの中蓋付き瓶を用いる。保存の際には耐水紙でラベルを作り、指定魚種かその他、採集点番号、採集年月日、ネット名、船名を鉛筆で記入し、標本とともに保存する。瓶の蓋には指定魚種かその他、採集点番号、ネット名をプリントアウトしたラベルシールもしくは油性のマーカーにより記載する。ラベルシールによる記載を推奨し、可能であれば貼り付けたラベルシールの上にさらに透明の保護シールを貼り付ける。その他、詳細や魚類・頭足類以外の標本については、「7. 標本保存・送付の詳細」に従う。
- (5)結果の入力:(1)で送付したワークシートに卵・仔稚魚等の同定、計数、測定結果、その他標本の湿重量、沈殿量、プランクトン優占種を入力する。
- (6) 成果物:査定結果を入力したワークシートは、水産資源研究所横浜庁舎、塩釜庁舎および標本採集実施機関に送付する。選別された卵・仔稚魚の標本は、標本採集実施機関、卵・仔稚魚選別済みの残滓プランクトン標本は、塩釜庁舎に送付する。標本の保存と送付の詳細については「7. 標本保存・送付の詳細」に従う。
- 2) ノルパックネットサンプル分析 (千葉県) 標本採集実施機関:千葉県水産総合研究センター
 - (1)標本の送付:当所の依頼により標本を採集した標本採集実施機関が請負者に採集標

本および標本一覧表を送付する。また、当所作成のエクセル等、表計算ソフトのワークシートを送付する。なお、送付にかかる運送費は請負者が負担する。

- (2)標本の確認:請負者は標本を受け取ってから速やかに標本と標本一覧表を照合し、 標本瓶の破損、標本の固定状態等について確認する。標本と標本一覧表の不一致や 輸送中の事故があった場合は、速やかに標本採集実施機関と取扱について協議する。
- (3)卵・仔稚魚の選別・計測:卵・仔稚魚の選別前に沈殿量を測定する。標本から約10 mm以上のゼラチン質生物(サルパ・ウミタル・クラゲ等、但しゾウクラゲは含め ない)、長さ約20mm以上の大型生物(オキアミ類、ヤムシ類、魚類を除く)を別 扱いとして分別した後、ゴミ等を取り除く (分別した生物は、後に選別する魚卵・ 仔稚等と一緒にすることなく別瓶に保存し、湿重量測定作業終了後の選別済みプラ ンクトン標本とともに委託者に返送する)。次に、試験管等の別容器に移し、一晩 以上置いて採集物を完全に沈殿させ、沈殿量 (ml、小数点1桁) を計測する。その 後、標本から魚類の卵・仔稚魚及び頭足類幼体をすべて選別する。選別に当たって はスポイドまたは先端の柔らかいステンレス製または竹製のピンセットを用いる など、卵・仔稚魚を損なうことのないよう注意する。また、破損した卵・仔稚魚、 特に前期仔魚の取り残しに注意する。卵・仔稚魚・幼生について、別添「太平洋ブ ロック共通フォーム」に記載した魚種・発育段階ごとに計数する。 卵は発達段階 A (受精後原口閉鎖まで、ただしカタクチイワシでは胚膜が 1/2 に達するまで)、 B(尾 芽が卵黄から分離するまで)、C(孵化まで)の3段階および不明ごとに、仔稚魚は 前期仔魚と後期仔魚以降の個体数を、スルメイカは総個体数を数える。サバ属卵は 接眼ミクロメータを用いて 0.025 mm 以上の精度で直径を計測し、1.1 mm 以下をマ サバ、1.1 mm 超をゴマサバとして集計すること。魚類・頭足類以外の標本の湿重 量 (g、小数点2桁)を計測する。
- (4)標本の保存:選別した魚類の卵・仔稚魚は採集点ごとに、スルメイカを含む指定魚種、その他の魚類・頭足類ごとの2つに分け、10 ml 程度の中蓋付き標本瓶に5%中性ホルマリン溶液で固定する。基本的に標本は5%中性ホルマリン溶液での固定とするが、「その他魚類卵」および各「類似魚種卵」等について、担当者から指示があった場合は99%エタノールで保存する。その際、容器蓋に99%エタノールと分かるように記載すること。標本が大きい場合は適宜大きいサイズの中蓋付き瓶を用いる。保存の際には耐水紙でラベルを作り、指定魚種かその他、採集点番号、採集年月日、ネット名、船名を鉛筆で記入し、標本とともに保存する。瓶の蓋には指定魚種かその他、採集点番号、ネット名をプリントアウトしたラベルシールもしくは油性のマーカーにより記載する。ラベルシールによる記載を推奨し、可能であれば貼り付けたラベルシールの上にさらに透明の保護シールを貼り付ける。その他、詳細や魚類・頭足類以外の標本については、「7.標本保存・送付の詳細」に従う。
- (5)結果の入力:(1)で送付したワークシートに卵・仔稚魚等の同定、計数、測定結果、

その他標本の湿重量、沈殿量、プランクトン優占種を入力する。

- (6)成果物: 査定結果を入力したワークシートは、横浜庁舎、塩釜庁舎および標本採集 実施機関に送付する。選別された卵・仔稚魚の標本は、標本採集実施機関、卵・仔 稚魚選別済みの残滓プランクトン標本は、塩釜庁舎に送付する。標本の保存と送付 の詳細については「7. 標本保存・送付の詳細」に従う。
- 3) ノルパックネットサンプル分析 (東京都) 標本採集実施機関:東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所
 - (1)標本の送付:当所の依頼により標本を採集した標本採集実施機関が請負者に採集標本および標本一覧表を送付する。また、当所作成のエクセル等、表計算ソフトのワークシートを送付する。なお、送付にかかる運送費は請負者が負担する。
 - (2)標本の確認:請負者は標本を受け取ってから速やかに標本と標本一覧表を照合し、 標本瓶の破損、標本の固定状態等について確認する。標本と標本一覧表の不一致や 輸送中の事故があった場合は、速やかに標本採集実施機関と取扱について協議する。
 - (3)卵・仔稚魚の選別・計測:卵・仔稚魚の選別前に沈殿量を測定する。標本から約10 mm 以上のゼラチン質生物 (サルパ・ウミタル・クラゲ等、但しゾウクラゲは含め ない)、長さ約20mm以上の大型生物(オキアミ類、ヤムシ類、魚類を除く)を別 扱いとして分別した後、ゴミ等を取り除く(分別した生物は、後に選別する魚卵・ 仔稚等と一緒にすることなく別瓶に保存し、湿重量測定作業終了後の選別済みプラ ンクトン標本とともに委託者に返送する)。次に、試験管等の別容器に移し、一晩 以上置いて採集物を完全に沈殿させ、沈殿量 (ml、小数点1桁) を計測する。その 後、標本から魚類の卵・仔稚魚及び頭足類幼体をすべて選別する。選別に当たって はスポイドまたは先端の柔らかいステンレス製または竹製のピンセットを用いる など、卵・仔稚魚を損なうことのないよう注意する。また、破損した卵・仔稚魚、 特に前期仔魚の取り残しに注意する。卵・仔稚魚・幼生について、別添「太平洋ブ ロック共通フォーム」に記載した魚種・発育段階ごとに計数する。卵は発達段階 A (受精後原口閉鎖まで、ただしカタクチイワシでは胚膜が 1/2 に達するまで)、B(尾 芽が卵黄から分離するまで)、C(孵化まで)の3段階および不明ごとに、仔稚魚は 前期仔魚と後期仔魚以降の個体数を、スルメイカは総個体数を数える。サバ属卵は 接眼ミクロメータを用いて 0.025 mm 以上の精度で直径を計測し、1.1 mm 以下をマ サバ、1.1 mm 超をゴマサバとして集計すること。魚類・頭足類以外の標本の湿重 量 (mg、小数点2桁) を計測する。
 - (4)標本の保存:選別した魚類の卵・仔稚魚は採集点ごとに、スルメイカを含む指定魚種、その他の魚類・頭足類ごとの2つに分け、10 ml 程度の中蓋付き標本瓶に5%中性ホルマリン溶液で固定する。基本的に標本は5%中性ホルマリン溶液での固定と

するが、「その他魚類卵」および各「類似魚種卵」等について、担当者から指示があった場合は99%エタノールで保存する。その際、容器蓋に99%エタノールと分かるように記載すること。標本が大きい場合は適宜大きいサイズの中蓋付き瓶を用いる。保存の際には耐水紙でラベルを作り、指定魚種かその他、採集点番号、採集年月日、ネット名、船名を鉛筆で記入し、標本とともに保存する。瓶の蓋には指定魚種かその他、採集点番号、ネット名をプリントアウトしたラベルシールもしくは油性のマーカーにより記載する。ラベルシールによる記載を推奨し、可能であれば貼り付けたラベルシールの上にさらに透明の保護シールを貼り付ける。その他、詳細や魚類・頭足類以外の標本については、「7.標本保存・送付の詳細」に従う。

- (5)結果の入力: (1)で送付したワークシートに卵・仔稚魚等の同定、計数、測定結果、 その他標本の湿重量、沈殿量、プランクトン優占種を入力する。
- (6)成果物: 査定結果を入力したワークシートは、横浜庁舎、塩釜庁舎および標本採集 実施機関に送付する。選別された卵・仔稚魚の標本は、標本採集実施機関、卵・仔 稚魚選別済みの残滓プランクトン標本は、塩釜庁舎に送付する。標本の保存と送付 の詳細については「7. 標本保存・送付の詳細」に従う。
- 4) ノルパックネットサンプル分析 (神奈川県) 標本採集実施機関:神奈川県水産技術センター
 - (1)標本の送付:当所の依頼により標本を採集した標本採集実施機関が請負者に採集標本および標本一覧表を送付する。また、当所作成のエクセル等、表計算ソフトのワークシートを送付する。なお、送付にかかる運送費は請負者が負担する。
 - (2)標本の確認:請負者は標本を受け取ってから速やかに標本と標本一覧表を照合し、 標本瓶の破損、標本の固定状態等について確認する。標本と標本一覧表の不一致や 輸送中の事故があった場合は、速やかに標本採集実施機関と取扱について協議する。
 - (3)卵・仔稚魚の選別・計測:卵・仔稚魚の選別前に沈殿量を測定する。標本から約10mm以上のゼラチン質生物(サルパ・ウミタル・クラゲ等、但しゾウクラゲは含めない)、長さ約20mm以上の大型生物(オキアミ類、ヤムシ類、魚類を除く)を別扱いとして分別した後、ゴミ等を取り除く(分別した生物は、後に選別する魚卵・仔稚等と一緒にすることなく別瓶に保存し、湿重量測定作業終了後の選別済みプランクトン標本とともに委託者に返送する)。次に、試験管等の別容器に移し、一晩以上置いて採集物を完全に沈殿させ、沈殿量(ml、小数点1桁)を計測する。その後、標本から魚類の卵・仔稚魚及び頭足類幼体をすべて選別する。選別に当たってはスポイドまたは先端の柔らかいステンレス製または竹製のピンセットを用いるなど、卵・仔稚魚を損なうことのないよう注意する。また、破損した卵・仔稚魚、特に前期仔魚の取り残しに注意する。卵・仔稚魚・幼生について、別添「太平洋ブ

ロック共通フォーム」に記載した魚種・発育段階ごとに計数する。卵は発達段階 A (受精後原口閉鎖まで、ただしカタクチイワシでは胚膜が 1/2 に達するまで)、 B (尾芽が卵黄から分離するまで)、 C (孵化まで) の 3 段階および不明ごとに、仔稚魚は前期仔魚と後期仔魚以降の個体数を、スルメイカは総個体数を数える。サバ属卵は接眼ミクロメータを用いて 0.025 mm 以上の精度で直径を計測し、1.1 mm 以下をマサバ、1.1 mm 超をゴマサバとして集計すること。魚類・頭足類以外の標本の湿重量 (g、小数点 2 桁) を計測する。

- (4)標本の保存:選別した魚類の卵・仔稚魚は採集点ごとに、スルメイカを含む指定魚種、その他の魚類・頭足類ごとの2つに分け、10 ml 程度の中蓋付き標本瓶に5%中性ホルマリン溶液で固定する。基本的に標本は5%中性ホルマリン溶液での固定とするが、「その他魚類卵」および各「類似魚種卵」等について、担当者から指示があった場合は99%エタノールで保存する。その際、容器蓋に99%エタノールと分かるように記載すること。標本が大きい場合は適宜大きいサイズの中蓋付き瓶を用いる。保存の際には耐水紙でラベルを作り、指定魚種かその他、採集点番号、採集年月日、ネット名、船名を鉛筆で記入し、標本とともに保存する。瓶の蓋には指定魚種かその他、採集点番号、ネット名をプリントアウトしたラベルシールもしくは油性のマーカーにより記載する。ラベルシールによる記載を推奨し、可能であれば貼り付けたラベルシールの上にさらに透明の保護シールを貼り付ける。その他、詳細や魚類・頭足類以外の標本については、「7.標本保存・送付の詳細」に従う。
- (5)結果の入力:(1)で送付したワークシートに卵・仔稚魚等の同定、計数、測定結果、その他標本の湿重量、沈殿量、プランクトン優占種を入力する。
- (6)成果物:査定結果を入力したワークシートは、横浜庁舎、塩釜庁舎および標本採集 実施機関に送付する。選別された卵・仔稚魚の標本は、標本採集実施機関、神奈川 県については、卵・仔稚魚選別済みの残滓プランクトン標本も、標本採集実施機関 に送付する。標本の保存と送付の詳細については「7. 標本保存・送付の詳細」に従 う。
- 5) ノルパックネットサンプル分析 (静岡県) 標本採集実施機関:静岡県水産技術研究所
 - (1)標本の送付:当所の依頼により標本を採集した標本採集実施機関が請負者に採集標本および標本一覧表を送付する。また、当所作成のエクセル等、表計算ソフトのワークシートを送付する。なお、送付にかかる運送費は請負者が負担する。
 - (2)標本の確認:請負者は標本を受け取ってから速やかに標本と標本一覧表を照合し、 標本瓶の破損、標本の固定状態等について確認する。標本と標本一覧表の不一致や 輸送中の事故があった場合は、速やかに標本採集実施機関と取扱について協議する。

- (3)卵・仔稚魚の選別・計測:卵・仔稚魚の選別前に沈殿量を測定する。標本から約10 mm以上のゼラチン質生物 (サルパ・ウミタル・クラゲ等、但しゾウクラゲは含め ない)、長さ約20mm以上の大型生物(オキアミ類、ヤムシ類、魚類を除く)を別 扱いとして分別した後、ゴミ等を取り除く (分別した生物は、後に選別する魚卵・ 仔稚等と一緒にすることなく別瓶に保存し、湿重量測定作業終了後の選別済みプラ ンクトン標本とともに委託者に返送する)。次に、試験管等の別容器に移し、一晩 以上置いて採集物を完全に沈殿させ、沈殿量 (ml、小数点1桁) を計測する。その 後、標本から魚類の卵・仔稚魚及び頭足類幼体をすべて選別する。選別に当たって はスポイドまたは先端の柔らかいステンレス製または竹製のピンセットを用いる など、卵・仔稚魚を損なうことのないよう注意する。また、破損した卵・仔稚魚、 特に前期仔魚の取り残しに注意する。卵・仔稚魚・幼生について、別添「太平洋ブ ロック共通フォーム」に記載した魚種・発育段階ごとに計数する。卵は発達段階 A (受精後原口閉鎖まで、ただしカタクチイワシでは胚膜が 1/2 に達するまで)、 B(尾 芽が卵黄から分離するまで)、C(孵化まで)の3段階および不明ごとに、仔稚魚は 前期仔魚と後期仔魚以降の個体数を、スルメイカは総個体数を数える。サバ属卵は 接眼ミクロメータを用いて 0.025 mm 以上の精度で直径を計測し、1.1 mm 以下をマ サバ、1.1 mm 超をゴマサバとして集計すること。魚類・頭足類以外の標本の湿重 量 (g、小数点2桁)を計測する。
- (4)標本の保存:選別した魚類の卵・仔稚魚は採集点ごとに、スルメイカを含む指定魚種、その他の魚類・頭足類ごとの2つに分け、10 ml 程度の中蓋付き標本瓶に5%中性ホルマリン溶液で固定する。基本的に標本は5%中性ホルマリン溶液での固定とするが、「その他魚類卵」および各「類似魚種卵」等について、担当者から指示があった場合は99%エタノールで保存する。その際、容器蓋に99%エタノールと分かるように記載すること。標本が大きい場合は適宜大きいサイズの中蓋付き瓶を用いる。保存の際には耐水紙でラベルを作り、指定魚種かその他、採集点番号、採集年月日、ネット名、船名を鉛筆で記入し、標本とともに保存する。瓶の蓋には指定魚種かその他、採集点番号、ネット名をプリントアウトしたラベルシールもしくは油性のマーカーにより記載する。ラベルシールによる記載を推奨し、可能であれば貼り付けたラベルシールの上にさらに透明の保護シールを貼り付ける。その他、詳細や魚類・頭足類以外の標本については、「7.標本保存・送付の詳細」に従う。
- (5)結果の入力:(1)で送付したワークシートに卵・仔稚魚等の同定、計数、測定結果、その他標本の湿重量、沈殿量、プランクトン優占種を入力する。
- (6)成果物: 査定結果を入力したワークシートは、横浜庁舎、塩釜庁舎および標本採集 実施機関に送付する。選別された卵・仔稚魚の標本は、標本採集実施機関、卵・仔 稚魚選別済みの残滓プランクトン標本は、塩釜庁舎に送付する。標本の保存と送付 の詳細については「7. 標本保存・送付の詳細」に従う。

- 6) ノルパックネットサンプル分析 (愛知県) 標本採集実施機関:愛知県水産試験場
 - (1)標本の送付:当所の依頼により標本を採集した標本採集実施機関が請負者に採集標本および標本一覧表を送付する。また、当所作成のエクセル等、表計算ソフトのワークシートを送付する。なお、送付にかかる運送費は請負者が負担する。
 - (2)標本の確認:請負者は標本を受け取ってから速やかに標本と標本一覧表を照合し、 標本瓶の破損、標本の固定状態等について確認する。標本と標本一覧表の不一致や 輸送中の事故があった場合は、速やかに標本採集実施機関と取扱について協議する。
 - (3)卵・仔稚魚の選別・計測:卵・仔稚魚の選別前に沈殿量を測定する。標本から約10 mm以上のゼラチン質生物(サルパ・ウミタル・クラゲ等、但しゾウクラゲは含め ない)、長さ約20mm以上の大型生物(オキアミ類、ヤムシ類、魚類を除く)を別 扱いとして分別した後、ゴミ等を取り除く (分別した生物は、後に選別する魚卵・ 仔稚等と一緒にすることなく別瓶に保存し、湿重量測定作業終了後の選別済みプラ ンクトン標本とともに委託者に返送する)。次に、試験管等の別容器に移し、一晩 以上置いて採集物を完全に沈殿させ、沈殿量 (ml、小数点1桁) を計測する。その 後、標本から魚類の卵・仔稚魚及び頭足類幼体をすべて選別する。選別に当たって はスポイドまたは先端の柔らかいステンレス製または竹製のピンセットを用いる など、卵・仔稚魚を損なうことのないよう注意する。また、破損した卵・仔稚魚、 特に前期仔魚の取り残しに注意する。卵・仔稚魚・幼生について、別添「太平洋ブ ロック共通フォーム」に記載した魚種・発育段階ごとに計数する。卵は発達段階 A (受精後原口閉鎖まで、ただしカタクチイワシでは胚膜が 1/2 に達するまで)、B(尾 芽が卵黄から分離するまで)、C(孵化まで)の3段階および不明ごとに、仔稚魚は 前期仔魚と後期仔魚以降の個体数を、スルメイカは総個体数を数える。サバ属卵は 接眼ミクロメータを用いて 0.025 mm 以上の精度で直径を計測し、1.1 mm 以下をマ サバ、1.1 mm 超をゴマサバとして集計すること。魚類・頭足類以外の標本の湿重 量 (g、小数点2桁) を計測する。
 - (4)標本の保存:選別した魚類の卵・仔稚魚は採集点ごとに、スルメイカを含む指定魚種、その他の魚類・頭足類ごとの2つに分け、10 ml 程度の中蓋付き標本瓶に5%中性ホルマリン溶液で固定する。基本的に標本は5%中性ホルマリン溶液での固定とするが、「その他魚類卵」および各「類似魚種卵」等について、担当者から指示があった場合は99%エタノールで保存する。その際、容器蓋に99%エタノールと分かるように記載すること。標本が大きい場合は適宜大きいサイズの中蓋付き瓶を用いる。保存の際には耐水紙でラベルを作り、指定魚種かその他、採集点番号、採集年月日、ネット名、船名を鉛筆で記入し、標本とともに保存する。瓶の蓋には指定魚種かその他、採集点番号、ネット名をプリントアウトしたラベルシールもしくは油

性のマーカーにより記載する。ラベルシールによる記載を推奨し、可能であれば貼り付けたラベルシールの上にさらに透明の保護シールを貼り付ける。その他、詳細や魚類・頭足類以外の標本については、「7.標本保存・送付の詳細」に従う。

- (5)結果の入力: (1)で送付したワークシートに卵・仔稚魚等の同定、計数、測定結果、 その他標本の湿重量、沈殿量、プランクトン優占種を入力する。
- (6)成果物:査定結果を入力したワークシートは、横浜庁舎、塩釜庁舎および標本採集 実施機関に送付する。選別された卵・仔稚魚の標本は、標本採集実施機関、卵・仔 稚魚選別済みの残滓プランクトン標本は、塩釜庁舎に送付する。標本の保存と送付 の詳細については「7. 標本保存・送付の詳細」に従う。
- 7) ノルパックネットサンプル分析 (三重県) 標本採集実施機関:三重県水産研究所
 - (1)標本の送付:当所の依頼により標本を採集した標本採集実施機関が請負者に採集標本および標本一覧表を送付する。また、当所作成のエクセル等、表計算ソフトのワークシートを送付する。なお、送付にかかる運送費は請負者が負担する。
 - (2)標本の確認:請負者は標本を受け取ってから速やかに標本と標本一覧表を照合し、標本瓶の破損、標本の固定状態等について確認する。標本と標本一覧表の不一致や輸送中の事故があった場合は、速やかに標本採集実施機関と取扱について協議する。
 - (3)卵・仔稚魚の選別・計測:卵・仔稚魚の選別前に沈殿量を測定する。標本から約10 mm以上のゼラチン質生物(サルパ・ウミタル・クラゲ等、但しゾウクラゲは含め ない)、長さ約20mm以上の大型生物(オキアミ類、ヤムシ類、魚類を除く)を別 扱いとして分別した後、ゴミ等を取り除く (分別した生物は、後に選別する魚卵・ 仔稚等と一緒にすることなく別瓶に保存し、湿重量測定作業終了後の選別済みプラ ンクトン標本とともに委託者に返送する)。次に、試験管等の別容器に移し、一晩 以上置いて採集物を完全に沈殿させ、沈殿量 (ml、小数点1桁) を計測する。その 後、標本から魚類の卵・仔稚魚及び頭足類幼体をすべて選別する。選別に当たって はスポイドまたは先端の柔らかいステンレス製または竹製のピンセットを用いる など、卵・仔稚魚を損なうことのないよう注意する。また、破損した卵・仔稚魚、 特に前期仔魚の取り残しに注意する。卵・仔稚魚・幼生について、別添「太平洋ブ ロック共通フォーム」に記載した魚種・発育段階ごとに計数する。 卵は発達段階 A (受精後原口閉鎖まで、ただしカタクチイワシでは胚膜が 1/2 に達するまで)、B(尾 芽が卵黄から分離するまで)、C(孵化まで)の3段階および不明ごとに、仔稚魚は 前期仔魚と後期仔魚以降の個体数を、スルメイカは総個体数を数える。サバ属卵は 接眼ミクロメータを用いて 0.025 mm 以上の精度で直径を計測し、1.1 mm 以下をマ サバ、1.1 mm 超をゴマサバとして集計すること。魚類・頭足類以外の標本の湿重

量 (g、小数点 2 桁) を計測する。

- (4)標本の保存:選別した魚類の卵・仔稚魚は採集点ごとに、スルメイカを含む指定魚種、その他の魚類・頭足類ごとの2つに分け、10 ml 程度の中蓋付き標本瓶に5%中性ホルマリン溶液で固定する。基本的に標本は5%中性ホルマリン溶液での固定とするが、「その他魚類卵」および各「類似魚種卵」等について、担当者から指示があった場合は99%エタノールで保存する。その際、容器蓋に99%エタノールと分かるように記載すること。標本が大きい場合は適宜大きいサイズの中蓋付き瓶を用いる。保存の際には耐水紙でラベルを作り、指定魚種かその他、採集点番号、採集年月日、ネット名、船名を鉛筆で記入し、標本とともに保存する。瓶の蓋には指定魚種かその他、採集点番号、ネット名をプリントアウトしたラベルシールもしくは油性のマーカーにより記載する。ラベルシールによる記載を推奨し、可能であれば貼り付けたラベルシールの上にさらに透明の保護シールを貼り付ける。その他、詳細や魚類・頭足類以外の標本については、「7.標本保存・送付の詳細」に従う。
- (5)結果の入力: (1)で送付したワークシートに卵・仔稚魚等の同定、計数、測定結果、 その他標本の湿重量、沈殿量、プランクトン優占種を入力する。
- (6)成果物:査定結果を入力したワークシートは、横浜庁舎、塩釜庁舎および標本採集 実施機関に送付する。選別された卵・仔稚魚の標本は、標本採集実施機関、三重県 については、卵・仔稚魚選別済みの残滓プランクトン標本も、標本採集実施機関に 送付する。標本の保存と送付の詳細については「7. 標本保存・送付の詳細」に従う。

6. 査定結果の再点検

卵・仔稚魚の査定結果について、一度点検を行った上でさらに再点検を行うこと。 また点検および再点検のうちのどちらかは査定者とは別の者が行うこと。

また選別された卵・仔稚魚の標本(種別・個体数)と、耐水紙ラベル、瓶の蓋の記載内容、査定結果を入力したワークシートの内容が正しく齟齬が無いことを確認してから保存すること。

7. 標本保存・送付の詳細

選別された卵・仔稚魚の標本については、各都県研究機関ごとにスクリュー管を専用の箱に整理し、箱の上面と側面に紙ラベルで、研究機関、採集年月、ノルパックサンプルの卵・仔稚魚であることを明記した上で、各都県研究機関(標本採集実施機関)に送付する。

卵・仔稚魚選別済みのプランクトン標本については、塩釜庁舎へ送付する。プランクトン標本は指定のラベルと共に標準サンプル瓶 (UM サンプル瓶 50 ml) に入れる。1 本の瓶に収容出来ない場合は複数本に分けて収容する。標準サンプル瓶の蓋にはラベル 3 種を並べて貼付する。貼付するラベルは上からタフスポット (三商 商品コード 9640246)、タフタッグ (三商 商品コード 9608476) の順で、真ん中のラベルに船名、観測点名、目合 (335 μ m)、採集器具 (ノルパック)、採集層 (0-150 m

等)、分割率 (1/2 等) 等を記載すること。標本瓶は標準のコンテナ (三菱樹脂・ヒシコンテナ S-14 黄色) に 58 本収納する。また標本瓶蓋の一番上のラベルに 1~58 までの通し番号を記入する。ただし複数本に分けたサンプルについては全て同じ番号を記入し、そのことを (1) で送付したワークシートに入力する。一つのコンテナに採集した都県や採集月の異なる標本などが混在しても構わない。コンテナの面積の小さい 2 側面にはラミクロステープを貼付した上で通し番号を記載すること。標本およびコンテナに記載した通し番号を(1)で送付したワークシートに入力する。なお、コンテナの通し番は仮の番号であり、塩釜庁舎にて最終的な番号を割り振る。その時点で一番下のラベルにもコンテナの番号を記載する。コンテナには新聞紙等の緩衝材をいれ、さらに三段重ねにした上で最上部のコンテナに蓋(三菱樹脂・ヒシコンテナ S-1 用・黄色)をし、PPバンド(プラスチックバンド)等で結束した上で塩釜庁舎へ送付する(ただし、神奈川県、三重県についてはそれぞれの研究機関に送付する)。なお蓋については再利用するものとし、塩釜庁舎から分析業者へ纏めて返送する。元々標本が入っていた瓶は洗浄し、各都県研究機関へ返送する。不明な点は作業についての問い合わせは塩釜庁舎にする。なお、標本瓶やコンテナにかかる費用と運送費は請負者が負担する。

8. 標本又は成果物送付先

【茨城県水産試験場】

【千葉県水産総合研究センター】

【東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所】

【神奈川県水産技術センター】

【静岡県水産技術研究所】

【愛知県水産試験場】

【三重県水産研究所】

※ 送付先住所は業務開始時に担当者から連絡します。

【塩釜庁舎】 〒985-0001 宮城県塩竃市新浜町3丁目27-5 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 塩釜庁舎 寒流第2グループ

【横浜庁舎】 〒236-8648 神奈川県横浜市金沢区福浦 2-12-4 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 横浜庁舎 浮魚第 2 グループ

9. 業務期限 令和8年3月16日

※ただし、それぞれの調査分は以下の期限までに報告すること。

•4月調查分: 令和7年5月23日(検体送付予定時期:4月下旬~5月上旬)

・5月調查分: 令和7年6月6日(検体送付予定時期:5月下旬~6月上旬)

6月調查分: 令和7年6月24日(検体送付予定時期:6月中旬)

・7~11 月調査分: 令和7年12月12日(検体送付予定時期:各月下旬~翌月上旬)

・12 月以降調査分:令和8年3月16日(検体送付予定時期:各月中旬~翌月上旬)

10. その他

- 1) 一定数の標本を当所が事前に査定する。
- 2) 査定物及び時期については別途指示するものとする。
- 3)請負者成果物と当所査定結果が整合した上で完了とする。
- 4) 詳細については担当者と協議のうえ施行するものとする。 また、完了後検査職員の検査を受け合格すること。

魚種·発育段階	魚種•発育段階	魚種·発育段階	魚種・発育段階	魚種·発育段階	魚種·発育段階
マイワシA卵	コノシロA卵	ゴマサバA卵	エゾイソアイナメA卵	タチウオA卵	アユ前期仔魚
マイワシB卵	コノシロB卵	ゴマサバB卵	エゾイソアイナメB卵	タチウオB卵	アユ後期仔魚
マイワシC卵	コノシロC卵	ゴマサバC卵	エゾイソアイナメC卵	タチウオC卵	ハモ前期仔魚
マイワシステージ不明卵	コノシロステージ不明卵	ゴマサバステージ不明卵	エゾイソアイナメステージ不明卵	タチウオステージ不明卵	ハモ後期仔魚
マイワシ類似魚種卵	コノシロ前期仔魚	マアジA卵	エゾイソアイナメ前期仔魚	タチウオ前期仔魚	ホタルイカA卵
マイワシ前期仔魚	コノシロ後期仔魚	マアジB卵	エゾイソアイナメ後期仔魚	タチウオ後期仔魚	ホタルイカB卵
マイワシ後期仔魚	サバ類A卵	マアジC卵	ブリA卵	サワラA卵	ホタルイカC卵
カタクチイワシA卵	サバ類B卵	マアジステージ不明卵	ブリB卵	サワラB卵	スズキA卵
カタクチイワシB卵	サバ類C卵	マアジ類似魚種卵	ブリC卵	サワラC卵	スズキB卵
カタクチイワシC卵	サバ類ステージ不明卵	マアジ前期仔魚	ブリステージ不明卵	サワラステージ不明卵	スズキC卵
カタクチイワシステージ不明卵	サバ類類似魚種卵	マアジ後期仔魚	ブリ類似魚種卵	サワラ前期仔魚	スズキステージ不明卵
カタクチイワシ前期仔魚	サバ類前期仔魚	ムロアジ類前期仔魚	ブリ前期仔魚	サワラ後期仔魚	スズキ類似魚種卵
カタクチイワシ後期仔魚	サバ類後期仔魚	ムロアジ類後期仔魚	ブリ後期仔魚	イサキ前期仔魚	スズキ前期仔魚
ウルメイワシA卵	マサバA卵	イトヒキダラA卵	キンメダイA卵	イサキ後期仔魚	スズキ後期仔魚
ウルメイワシB卵	マサバB卵	イトヒキダラB卵	キンメダイB卵	イカナゴ前期仔魚	アリマ幼生
ウルメイワシC卵	マサバC卵	イトヒキダラC卵	キンメダイC卵	イカナゴ後期仔魚	その他魚類卵
ウルメイワシステージ不明卵	マサバステージ不明卵	イトヒキダラステージ不明卵	キンメダイステージ不明卵	マダイ後期仔魚	その他魚類仔稚魚
ウルメイワシ前期仔魚		イトヒキダラ前期仔魚	キンメダイ類似魚種卵	ヒラメ後期仔魚	その他頭足類卵
ウルメイワシ後期仔魚		イトヒキダラ後期仔魚	キンメダイ前期仔魚	キビナゴ前期仔魚	その他頭足類幼生
			キンメダイ後期仔魚	キビナゴ後期仔魚	

スルメイカ前期仔魚(スルメイカーリンコトウチオン幼生)